

緑化だより

No.91 平成26年1・2月合併号



雪景色（県木の森）

- きのこの香り(10)
- 野鳥の世界(クマタカ)
- 縁起木
- 研修会のご案内
- お知らせ・ご案内

今年もよろしくお願ひします。



生き物いっぱい 自然いっぱい
広島県緑化センター・広島県立広島緑化植物公園
〒732-0036 広島市東区福田町 166-2

TEL 082-899-2811 FAX 082-899-2843

URL <http://ryokka-c.jp> E-mail hiroshima@ryokka-c.jp

きのこの香り

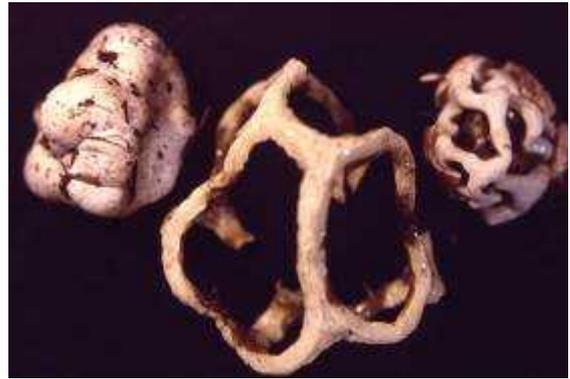
No. 10 カゴタケ(籠茸)

4月から、特徴のある香りを持ったきのこをとりあげています。

10回目はカゴタケです。

自然界の造形の不思議さとはこのことを言うのでしょうか。どうしてこのような形のものが自然にできあがるのでしょうか。しかも最初は白い卵のようなものの中にこのカゴの形のキノコが畳み込まれているのですから。

カゴタケは晩秋に広葉樹林や針葉樹林の地上に発生します。幼時は白色～淡灰褐色で径2～4cmのほぼ球形。成熟すると裂開して白色の托枝が膨張し、広がると径3～12cmの中空丸籠形になります。籠ができあがると袋から転がり出ることもあります。籠の腕の内側に暗緑褐色の粘液をつけ、フルーティな甘い匂いを放ちます。アゲハチョウの幼虫が出す臭気に似ているという人もいます。この暗緑褐色の粘液の中には孢子がたくさん含まれています。匂いに引き寄せられたハエなどがとまったときに足に粘液がつき、孢子が他の場所に運ばれるのです。(川上)



カゴタケ

野鳥の世界

クマタカ

深い山の落葉広葉樹林に生息しその姿を見ることが難しいクマタカは、中国山地で最大級の野鳥といっても過言ではありません。

森林地帯を飛びまわって小動物を採食するため、主翼の幅は広く、尾羽も自在に動かして俊敏な行動をします。見通しの良い大木の横枝に停まり、強い視力の眼で睨みを利かせています。

主食はキジ、ヤマドリ、ウサギ、タヌキ、イタチなど。初夏はヒナを育てるため、ヘビ、ヒヨドリなどの小動物です。4月上旬に生まれたヒナへの給餌は、1日に1～2回、8月中旬頃まで続きます。ヒナは



クマタカ

9月始め頃に巣立ちますが、巣立った後も給仕を受け、自分で餌を捕らえられるようになるのは翌年の夏頃のようにです。それでも親の姿を見つけると追ってゆき、餌ねだりをすることもあります。しかし、親鳥はそっけなく逃げ去ってしまいます。巣立ったヒナは、しばらく巣から近い地域で行動し、時々巣に戻ったり、飛行している姿を見る事があります。この頃、ヒナ鳥は風力や気流の利用の仕方を身につけると考えられます。飛行に失敗し、林間の地上に落ちて拾われる幼鳥がまれにいます。

生きた獲物を主食にしている大型のワシ・タカ類は、眼光が鋭く、気性の強さが顔面に表れており、絵画や紋章のモチーフにもなり、多くの作品が残されています。(吉見)

縁起木

広辞林によれば、縁起とは「仏語で因縁生起の意で、一切の事物が因縁によって生じ起ること」とあります。又、「寺社、仏像、宝物の起源や由来をさすことがある」とあります。

ここから、縁起が良い、縁起が悪いといった言葉が出ました。

万人縁起の良いことを願います。

正月の松竹梅は縁起物とされますが、歳寒三友から出て日本で定着した習慣です。

松は年中緑を保ち長命であること、竹は真っ直ぐすくすくと成長することから、梅は厳しい寒さの中で他に先がけて花開くことから縁起物の代表格として扱われます。

讓葉(ユズリハ)は新葉が出てから古葉を落とすため、順序良く家が引き継がれる象徴として、しめ飾りに付けます。この葉で包むのが南天で、赤い実を飾りにします。語呂から難を転ずる木として縁起物にされます。南天の代わりに万両や千両の実で代用しますが、縁起物のしめ飾りはこうして出来上がります。

クロガネモチの、クロは遅しさを表し、金持ちになるとのことで庭木として植えられます。

一方縁起の悪い木として、実の割れるザクロ、イチジクは庭に植えるものでないと云われます。しかしザクロは賢い子が生まれ、沢山の子に恵まれるとして縁起の良い木だとする場合もあります。

イチジクは縁起が悪いとしたのは、うかつに木に登ると、枝が折れやすく怪我の元になるといったことからの戒めかも知れません。

同様に、ケヤキを庭に植えるなというのは、大きくなりすぎて落ち葉で樋を詰まらせたり、小枝が落ちたりすることからとも考えられ、これを縁起と結び付けて庭づくりに伝えたのかもしれない。

縁起の良し悪しは、人間が勝手に解釈したものであり気にすることはありません。(正本)



ウメ



ユズリハ



ナンテン



クロガネモチ

研修会のご案内

- 1月5日(日) 『春の七草教室』
春の七草を学び七草粥を試食します
※受付終了しました
10:00～12:00 学習室 集合
講師：森林インストラクター
長井 稔

- 2月23日(日) 『ジャンボ椎茸植菌教室』
植菌体験。ほだ木は持ち帰り栽培して下さい
※要予約(先着30名) 材料費700円
10:00～12:00 学習室 集合
講師：日本きのこセンター
影井 和男

- 3月5日(水)
特別研修会 『一葉松の接木教室』
珍しい一葉のマツの接木をしてみよう
※要予約(先着20名) 材料費500円。
よく切れるナイフ・一枚刃カミソリ持参
10:00～12:00 学習室 集合
講師：植物研究家
清藤 徹

- 3月16日(日) 『早春のバードウォッチング』
冬鳥の渡来を観察しましょう
※双眼鏡持参
9:00～12:00 管理事務所前 集合
講師：日本鳥類保護連盟会員
吉見 良一

- 3月22日(土) 『3月の自然探勝』
春を待つ樹木を観察しよう
10:00～12:00 管理事務所前 集合
講師：環境カウンセラー・自然観察指導員
和田 秀次

- 3月23日(日) 『接木教室』
接木を実習しよう
※要予約、ナイフ持参、材料費500円
10:00～12:00 学習室 集合
講師：NPO法人「樹木医ひろしま」理事長
溝口 幸平太

♪☆お知らせ・ご案内☆♪

◎ 展示会のお知らせ

展示場所:レストハウス

緑化センターの野鳥の単展

1月7日(火)～ 2月28日(金)

緑化センター

写真コンクール作品展

～ 1月25日(土)

緑化ポスター原画コンクール

入賞作品展

1月28日(火)～ 2月28日(金)



H.25 写真コンクール作品展

※ 園内は凍結していることがあります。
ご来園の際は、気をつけてお越し下さい。

表紙: 雪景色(県木の森)

雪の園内は、県木の森など、落ち着いた雰囲気が楽しめます。

緑化写真コンクール結果発表

12月6日(金)、緑化センター研修会「写真コンクール公開審査」において25年度緑化写真コンクールの審査が行なわれました。応募作品31名、78点の中から特選1点、入選2点、佳作3点の計6点が選ばれましたのでお知らせします。

入賞作品、及び応募された方の作品各1点を「緑化センター写真コンクール作品展」として12月17日(火)～1月25日(土)の間、レストハウスにて展示していますのでお楽しみください。

また、「平成26年度緑化写真コンクール」の募集を平成26年4月1日から行います。たくさんのご応募をお待ちしています！

賞	タイトル	氏名
特選	寒い朝	高取 一巳
入選	秋深み	鍵本 裕次
	紅色	坂田 昭和

賞	タイトル	氏名
佳作	秋色	的場 裕子
	遠足	迫 早智子
	初秋	猿田 幸雄

(敬称略)

特選



『寒い朝』

撮影者コメント

シャーベット状の雪が残る池で2羽のアヒルが仲良く泳ぐ様子に私の心は温くなりました。

講評：

一番の面白さはアヒルの配置と通った跡の造形。後方にうっすら写っているカモも目立たないように効いている。右の物体に積もった雪が強すぎるので、トリミングすればより良くなる。

入選



『秋深み』

撮影者コメント
 多くの曇り空を入れて撮りました。えくまの曇り空をあえて空ではなく手前の植

講評：

この角度からの構図は今まで出ていなかった。ドウダンツツジとその上の紅葉のコントラストが良い。白色によく目がいくので空が晴れていればなお良い。



『紅色』

撮影者コメント

なし

講評：

背景が単純化され、すっきりした非常に良い写真。花もついている。

佳作



『秋色』

撮影者コメント

雨あがりの緑化センター。ジョウビタキさんもみじがりをしていました。あまりにも色がキレイだったので夢中でシャッターを切りました。

講評：

鳥の周りの色が華やかで良い。もう少し背景を落とすと良い。



『遠足』

講評：

緑化センターらしい写真。それぞれの顔が見え、はしゃいでいる様子がよく出ており、よい写真。

撮影者コメント
 今日の子ども達はゲームばかりだった。みんな楽しくジャンケンゲーム
 笑顔



『初秋』

撮影者コメント

深い澄み切った青空のもと、美しい紅葉が始まっています。

講評：

雲の形、配置がよい。今から秋になるという雰囲気がよく出ている。